CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	(仮称)あけぼの第2クリニック	階数	地上5F
建設地	熊本県熊本市中央区本山1丁目167	構造	S造
用途地域	近隣商業地域,準防火地域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月　予定	評価の実施日	2019年7月12日
敷地面積	2,447 ㎡	作成者	(株)エネ・グリーン　坪田
建築面積	1,654 ㎡	確認日	2019年7月12日
延床面積	2,419 ㎡	確認者	(株)エネ・グリーン　定森

■ 外観

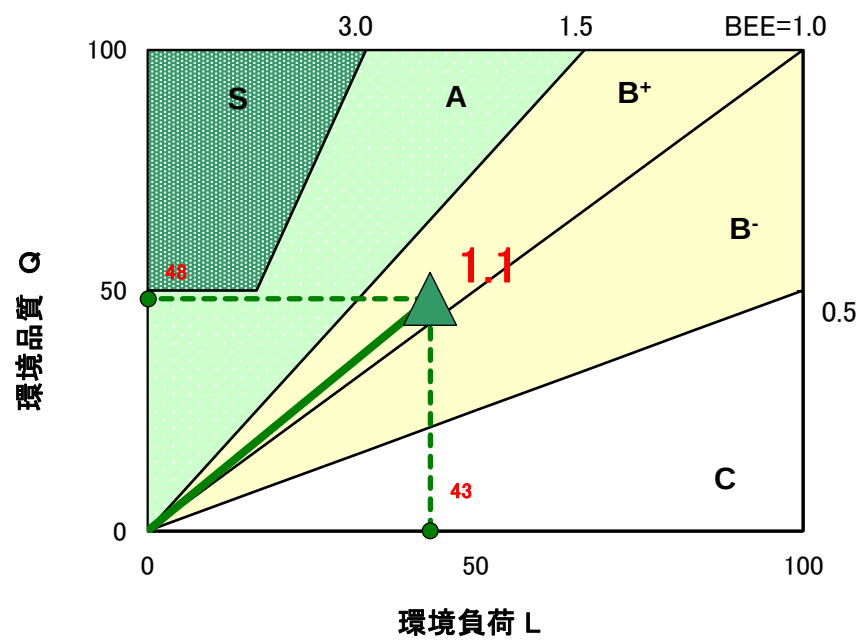
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆

BEE = 1.1

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆

排出率
88%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
76

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	72.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	83.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	62.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	90.7

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　I使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要

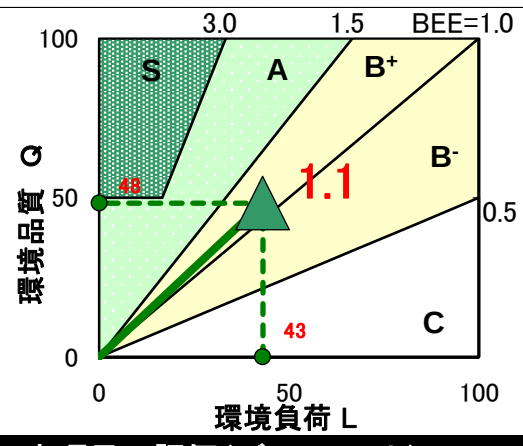
建物名称	(仮称)あけぼの第2クリニック	階数	地上5F
建設地	熊本県熊本市中央区本山1丁目167	構造	S造
用途地域	近隣商業地域,準防火地域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月　予定	評価の実施日	2019年7月12日
敷地面積	2,447 ㎡	作成者	(株)エネ・グリーン　坪田
建築面積	1,654 ㎡	確認日	2019年7月12日
延床面積	2,419 ㎡	確認者	(株)エネ・グリーン　定森

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

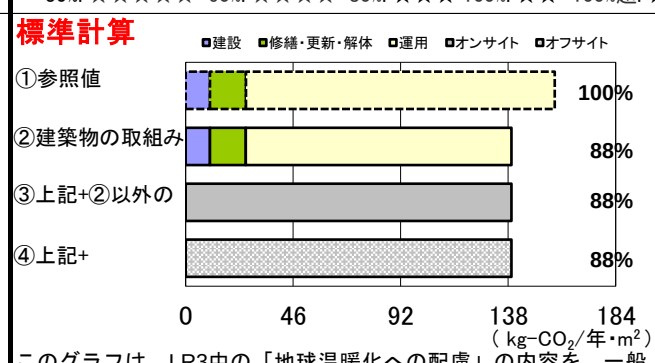
BEE =1.1 ★★★☆☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★



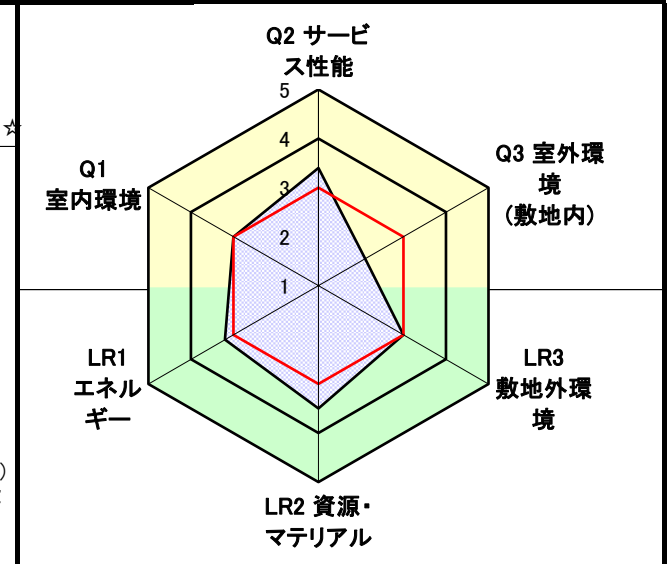
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆　30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

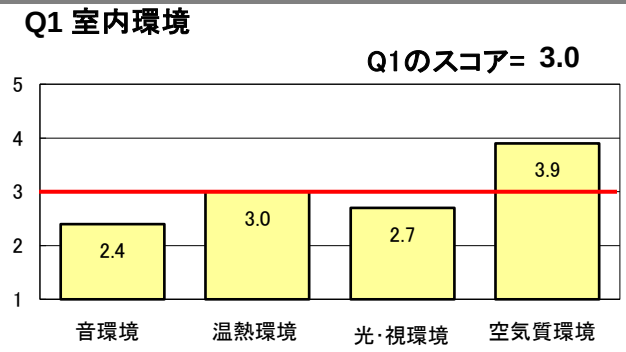
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



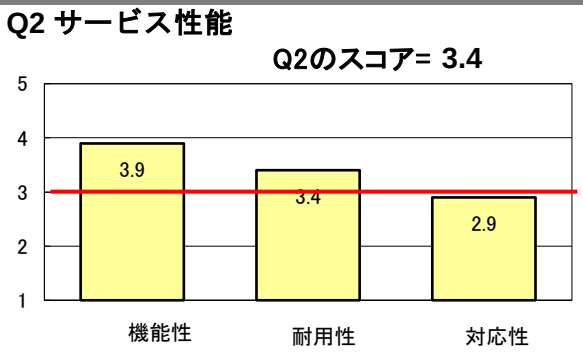
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.9

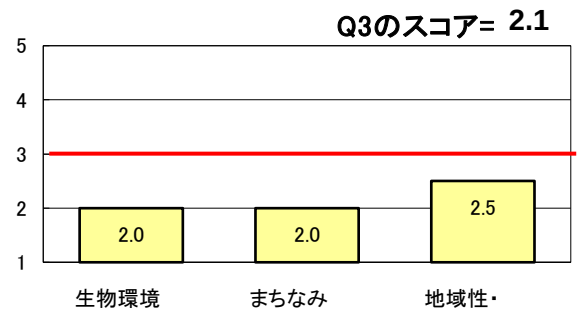
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.4

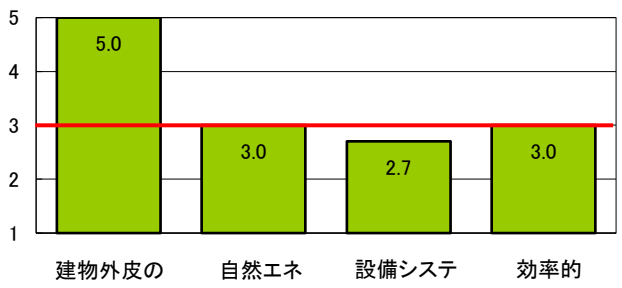


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.1

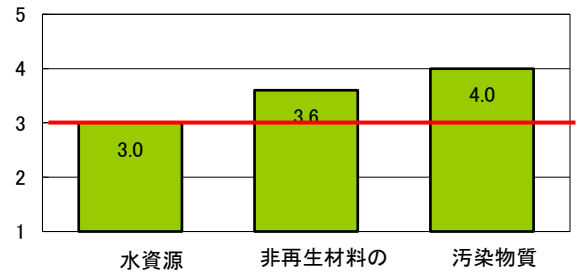


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

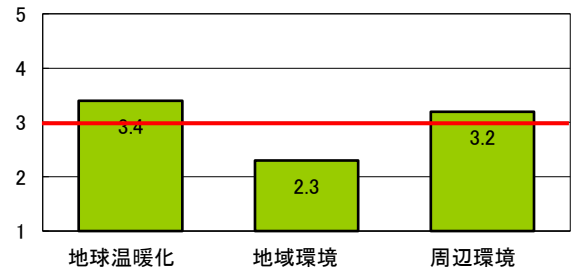
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 76

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 72.7

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =83.7

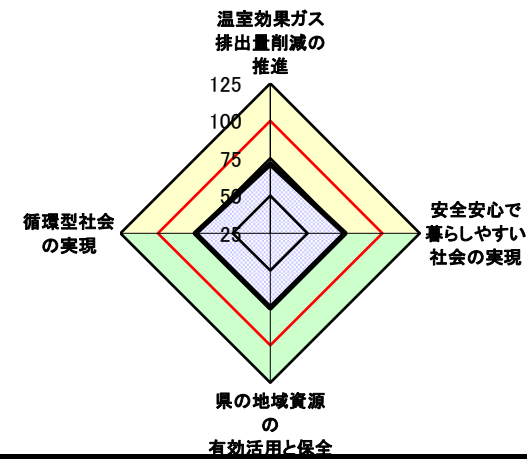
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 62.5

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =90.7

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2016年版
(仮称)あけぼの第2クリニック

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.9**
Q1 室内環境			**0.40**		**-**	**3.0**
1 音環境		**2.4**	0.15	**-**	-	**2.4**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.40	**-**	-	
1.2 遮音		**2.6**	0.40	**-**	-	
1 開口部遮音性能	T−2以上	5.0	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		**1.0**	0.20	**-**	-	
2 温熱環境		**3.0**	0.35	**-**	-	**3.0**
2.1 室温制御		**3.8**	0.50	**-**	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	窓　SC:0.28　U:3.41　外壁　U:0.36　屋根　U:0.41　外気床　U:0.47	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	集中ﾘﾓｺﾝにて管理	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		**1.0**	0.20	**-**	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**2.7**	0.25	**-**	-	**2.7**
3.1 昼光利用		**4.2**	0.30	**-**	-	
1 昼光率	4F待合ラウンジ　昼光率6.00%	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		**1.0**	0.30	**-**	-	
1 昼光制御		1.0	1.00	**-**	-	
3.3 照度		**3.0**	0.15	**-**	-	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	**-**	-	
4 空気質環境		**3.9**	0.25	**-**	-	**3.9**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	**-**	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		**3.0**	0.30	**-**	-	
1 換気量		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		**5.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		−	**0.30**	**-**	-	**3.4**
1 機能性		**3.9**	0.40	**-**	-	**3.9**
1.1 機能性・使いやすさ		**5.0**	0.40	**-**	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	チェックリストの基準を満たしている	5.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**3.0**	0.30	**-**	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		**3.5**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材、水切りの設置、防塵対策	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.4**	0.30	-	-	**3.4**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.8**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法の25%増の耐震性あり	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.2**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種B以上、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**2.8**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁比率　0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3　室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR　建築物の環境負荷低減性				-		-	3.2
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI値　0.68	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] =　0.86	2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎：再生クラッシャーラン	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床：エスリューム、オデオンPUR、ニチアスシグマフロア　天井：ソーラト	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）	断熱材は全てノンフロン品	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率　88%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半をみたす	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

建物利用者が快適に使用できるよう室内環境に考慮がされている。また建物内に障害を無くすよう設計がされている。25%増の耐震性や防汚性の高い建材の使用により建物への維持管理に配慮された設計となっている。リサイクル材、ノンフロン品断熱を使用し環境への負荷低減に努めている。光害対策を行っており一部敷地外環境へ配慮が成されている。

Q1 室内環境

開口部遮音性(T-2)より外部より騒音の侵入を防ぐことが可能である。外界かたの熱的侵入の抑制に努めている。集中ﾘﾓｺﾝにより管理を行い室内温度のむらを無くすよう対策をしている。良好な昼光率により採光可能性を確保している。F☆☆☆☆の建材を採用しており汚染物質の発生防止に努めている。

Q2 サービス性能

ユニバーサルデザインを採用しており不自由なく建物の利用が可能である。防汚性の高い建材、水切りの設置、防塵対策により建物の維持管理に配慮した設計となっている。建築基準法の25%増の耐震性を有しており災害時にも利用継続が可能である。空間の形状、自由さにより将来の設計変更に対応が可能な設計となっている。

Q3 室外環境（敷地内）

対策なし

LR1 エネルギー

熱負荷抑制に対する取り組みが行われており、冷暖房の使用エネルギーの削減が可能である。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材を積極的に使用しており環境負荷低減に取り組まれている。フロンの発生しない断熱材を使用し地球温暖化防止に努めている。

LR3 敷地外環境

光害対策を十分に行っており近隣住民へ配慮をしている。

その他

なし。

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	*（仮称）あけぼの第2クリニック*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				72.7	0.40	29.08
	Q1-2.1.2 外皮性能	5.0	0.05			
	Q1-3.1.3 昼光利用設備	3.0	0.05			
	Q1-3.2.1 昼光制御	1.0	0.05			
	LR1-1 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
	LR1-2 自然エネルギー利用	3.0	0.20			
	LR1-3 設備システムの高効率化	2.7	0.30			
	LR2-2.1 材料使用量の削減	2.0	0.10			
	LR3-2.3.3 交通負荷抑制	1.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				83.7	0.20	16.74
	Q2-1.1.3 バリアフリー計画	5.0	0.25			
	Q2-2.1.1 耐震性	4.0	0.25			
	Q3-1 生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
	Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
	LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				62.5	0.20	12.50
	Q3-2 まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
	LR2-1.1 節水	3.0	0.30			
	LR2-1.2.1 雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				90.7	0.20	18.14
	Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
	Q2-3 対応性・更新性	2.9	0.30			
	LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
	LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
	LR2-2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数